

第2章 歯学教育モデル・コア・カリキュラム

— 教育ガイドライン —

平成22年度改訂版準拠

診療参加型臨床実習

コア・カリキュラム事例集 (案)

歯学教育モデル・コア・カリキュラム
— 教育ガイドライン —
平成22年度改訂版準拠

診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集
(案)

平成23年度 先導的大学改革推進委託事業
「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究」

歯学調査研究チーム

目 次

はじめに	3
診療参加型臨床実習における用語の定義	4
F-1 医療面接	5
F-2 診察の基本	7
1) バイタルサイン	7
2) 頭頸部の診察	8
3) 口唇・口腔内状態の診察	9
F-3 画像検査	10
F-4 医療安全	11
F-5 地域医療	12
F-6 口腔外科系実習	13
(追加) F 領域に収載されていない水準 1 の項目	
薬剤情報	15
F-7 保存系実習	16
1) 保存修復実習	16
2) 歯内療法実習	18
3) 歯周治療実習	20
F-8 補綴系実習	22
1) クラウンブリッジ実習	22
2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）実習	23
F-9 小児歯科実習	25
1) フッ化物塗布	25
2) 予防填塞	27
3) 保護者へのブラッシング指導	28

F-10	矯正歯科実習	30
1)	成長発育期の口唇・口腔・顎顔面の診察	30
2)	矯正装置の説明	31
F	領域に収載されている歯科麻酔学領域の項目（再掲）	32
I.	局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）	32
F-6	口腔外科系実習	32
F-7	保存修復実習	32
F-8	クラウンブリッジ実習	32
F	領域に収載されていない歯科麻酔学領域の項目	34
	水準1	
I.	ショックの救急処置（気道確保、人工呼吸）、胸骨圧迫、誤嚥に対する処置	
	水準2	
I.	局所麻酔（伝達麻酔）	35
II.	血管穿刺（静脈確保）	36
	歯学教育調査研究チーム委員一覧	37

はじめに

先導的大学改革推進委託事業とは、教育現場の実態に即した新たな教育手法の開発や具体的な導入方法等の先導的調査研究を委託し、これらの成果を今後の国公立を通じた高等教育行政施策の企画立案及び改善に資するとともに、成果を広く公表することにより各大学の取組を支援・促進し、大学改革の一層の推進と教育の質の向上を図ることを目指すことを趣旨とした事業である。

平成 21 年 1 月に出された「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」による「確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策」（第 1 次報告）の提言を受け、平成 22 年度先導的大学改革推進委託事業を通じて委託された歯学調査研究チームにより、歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—（平成 22 年度改訂版）が完成された。今回の改訂では「F 臨床実習」という領域が新設され、臨床実習における一般目標、到達目標が明確にされ、これにより歯学教育モデル・コア・カリキュラム全体の中で臨床実習の位置づけが明らかとなった。

原則として、各大学はそれぞれの教育理念に基づいて特色ある歯学教育カリキュラムを策定することが必須であるが、平成 23 年度先導的大学改革推進委託事業では、各歯科大学・歯学部における診療参加型臨床実習のさらなる改善と充実に資するために、歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—（平成 22 年度改訂版）に準拠した臨床実習のコア・カリキュラム、診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集（案）を作成した。

平成 23 年 12 月 22～24 日に本事業の一環として、29 歯科大学・大学歯学部の卒前臨床実習担当者を対象とした「診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のためのワークショップ」が開催された。ここに挙げた事例集（案）は、そのワークショップ参加者からのご意見を反映させたものである。

各大学においては、教育環境の実状に合わせて、さらに充実した卒前臨床実習カリキュラム立案の一助としていただければ幸いである。

平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業
「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究」
歯学調査研究チーム 委員一同

診療参加型臨床実習における用語の定義

診療参加型臨床実習

患者を全人的・全身的に捉える態度を養うとともに、歯科医師として必要な基本的臨床能力を習得するため、患者の同意を得て、指導歯科医のもとで実際の歯科医療に携わり歯科医行為を行う臨床実習

《出典》 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告

～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～（平成21年1月30日）

見学

原則として水準4に相当する診療内容について、指導歯科医の歯科医療行為を見学する実習
（歯学教育モデルコアカリキュラム平成22年度改訂版）

介助

原則として水準3に相当する診療内容について、指導歯科医の歯科医療行為を介助する実習
（歯学教育モデルコアカリキュラム平成22年度改訂版）

自験

原則として水準1および2に相当する診療内容について、指導歯科医の管理・監督の下で、学習者が実際に歯科医行為を経験する実習

（歯学教育モデルコアカリキュラム平成22年度改訂版）

F-1 医療面接

一般目標： 良好な患者—歯科医師の関係を築くとともに、患者の情報を聴取し、診断をして治療計画を立てるための知識、技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ① 適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正し態度で患者に接することができる。
- ② 医療面接における基本的なコミュニケーションができる。
- ③ 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。
- ④ 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
- ⑤ 患者の不安、不満や表情、行動変化に適切に対応できる。
- ⑥ 診療録に得られた情報を POMR（問題志向型診療録）形式で記載できる。
- ⑦ 患者のプライバシーに配慮できる。
- ⑧ 患者に診断結果と治療方針を説明できる。

学習方略：

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～⑧	講 義	教 員	講義室	スライド プリント	講義時間 1時 間を3回程度	臨床実習開始前
2	⑥	カンファレンス	教 員 医 員	セミナー室 講義室	スライド 患者資料	放課後 (1回/月)	診療科のカンファレンス時 間に合わせて実施, 4グループに分かれて実施
3	①～⑦	ロールプレイ 相互実習	教 員 学 生	診療室また は講義室	シナリオ ビデオ 診療録	診療室: 診療時間外 講義室: 講義時間	(臨床実習開始前) 学生 20名に1人程度
4	①, ②, ⑤, ⑦, ⑧	ロールプレイ 相互実習	教 員 学 生	診療室 または 講義室	シナリオ ビデオ 診療録 レントゲン写 真, 模型, 口腔 内写真, 検査結 果など, 同意 書, 説明用資料	診療室: 診療時間外 講義室: 講義時間	臨床実習開始前 学生 20名に1人程度
5	①～⑦	シミュレーション 実習	教 員 SP	診療室	シナリオ 診療録	診療時間外 (自験前)	学生 10名に1人程度
6	①, ②, ⑤, ⑦, ⑧	シミュレーション 実習	教 員 SP	診療室	シナリオ ビデオ 診療録 レントゲン 写真, 模型, 口腔内写真, 同意書, 説明用資料	診療時間外 (自験前)	学生 10名に1人程度

7	①～⑦	診療見学・介助	教員 (予診担当医) 患者	診療室	診療録 問診表	診療時間内 (自験前・自験後)	初診患者の医療面接の 見学・介助を行う
8	①, ②, ⑤, ⑦, ⑧	診療見学・介助	教員 患者	診療室	診療録 レントゲン 写真, 模型, 口腔内写真, 同意書, 検査 結果など, 説明用資料	診療時間内 (自験前・自験後)	担当患者への説明・指導
9	①～⑦	診療参加型 臨床実習 (自験)	教員 (予診担当医) 患者	診療室	診療録 問診表	診療時間内 学生1人に つき15人以上	初診患者の医療面接 予診室日に自験を行う。
10	①, ②, ⑤, ⑦, ⑧	診療参加型 臨床実習 (自験)	教員 患者	診療室	診療録 レントゲン 写真, 模型, 口腔内写真, 同意書, 検査 結果など, 説明用資料	診療予約時間 (5回/学生)	担当患者への説明・指導

* 診療録の記載に関しては、電子カルテ運用をしている場合には、実施大学の運用に従う。

* LS 1～6は臨床実習開始前に行うことが望ましい。

学習評価：

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
⑥	形成的	臨床 実習生	知識	教員	カンファレ ンス終了後	レポート
①～⑦	形成的	臨床 実習生	技能・ 態度	教員 臨床実習生 SP	LS 5 中	観察記録
①, ②, ⑤, ⑦, ⑧	形成的	臨床 実習生	技能・ 態度	教員 臨床実習生 SP	LS 6 中	観察記録
①～⑦	形成的	臨床 実習生	技能・ 態度	教員	LS 7 及び LS 9 中	ポートフォリオ
①, ②, ⑤, ⑦, ⑧	形成的	臨床 実習生	技能・ 態度	教員	LS 8 及び LS 10 中	ポートフォリオ
①～⑧	総括的	臨床 実習生	技能・ 態度	教員 SP	臨床実習 終了時	シミュレーション試験 終了時 OSCE

F-2 診察の基本

一般目標：口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察技能についての知識、技能および態度を修得する。

F-2-1) バイタルサイン

到達目標 (SBOs)：

- ①触診法および聴診法で血圧を測定できる。
- ②橈骨動脈で脈拍を測定できる。
- ③体温の測定ができる。

学習方略：

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～③	相互実習	学 生 教 員	基礎実習室	教科書 臨床実習書	30分	(臨床実習開始前) 学生10名に教員1名
2	①～③	診療介助 診療見学	患 者 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	1症例10分	学生1名に患者担当医1名
3	①～③	診療参加型 臨床実習 (自 験)	患 者 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	1症例10分	学生1名に患者担当医1名

学習評価：

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～③	形成的	臨床実習生	技能・態度 (相互実習)	教 員 学 生	LS 1 中	技能試験 相互評価
①～③	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS 2 中	レポート
①～③	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS 3 中	観察記録 レポート

F-2-2) 頭頸部の診察

到達目標 (SBOs) :

- ① 顔面の色調変化の診察ができる。
- ② 顔面の対称性の診察ができる。
- ③ 下顎の開閉口路の診察ができる。
- ④ 顎関節部の診察ができる。
- ⑤ 頭頸部の筋肉の診察ができる。
- ⑥ 顎下リンパ節の診察ができる。

学習方略 : 臨床実習学生 (第5学年・第6学年) を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～⑥	ロールプレイ 相互実習	教 員 学 生 模擬患者	診療室	実習帳	診療時間外 (自験前)	学生6名に 教員1名
2	①～⑥	診療介助、見学	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
3	①～⑥	診療参加型 臨床実習 (自験)	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
4	①～⑥	セミナー SGD	教 員 学 生	セミナー室 ゼミ室	実習帳 スライド プリント	診療時間外	学生10名の小グループ に対して教員1名

学習評価 :

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度 (相互実習)	教 員 学 生	LS 1	技能試験 (相互評価)
①～⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員 学 生	LS 2,3	観察記録
①～⑥	形成的	臨床実習生	①～⑥に 関連する知識	教 員	LS 2,3	口頭試問
①～⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	終了時	技能試験

F-2-3) 口唇・口腔内状態の診察

到達目標 (SBOs) :

- ① 口唇・口腔内状態を診察できる。
- ② 診察した口唇・口腔内状態を診療録に記載できる。

学習方略 : 臨床実習学生 (第5学年・第6学年) を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①~②	相互実習	教 員 学 生	診療室	マネキン プリント	診療時間外 (自験前)	学生6名に 教員1名
2	①~②	診療介助、見学	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
3	①~②	診療参加型 臨床実習 (自験)	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
4	①~②	セミナー SGD	教 員 学 生	セミナー室 ゼミ室	実習帳 スライド プリント	診療時間外	学生10名の小グループに 教員1名

学習評価 :

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①~②	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員 学 生	LS 1	技能試験 (相互評価)
①~②	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS 2,3	観察記録
①~②	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	終了時	技能試験

F-3 画像検査

一般目標：診断に必要な画像検査の選択ができ、放射線の人体に対する影響と放射線防護について理解し、実践できる。

到達目標（SBOs）：

- ① 放射線検査の必要性について説明できる。
- ② 口内法エックス線撮影(デンタル撮影法)を実践できる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～②	相互実習	教 員 学 生	診療室	プリント	診療時間外 (自験前)	学生6名に 教員1名
2	①～②	診療参加型 臨床実習 (自 験)	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名

学習評価：

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～②	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員 学 生	LS 1	技能試験 (相互評価)
①～②	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員 学 生	LS 2	観察記録
①～②	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	終了時	技能試験

F-4 医療安全

一般目標：歯科診療を実践するために必要な医療安全・感染予防についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 医療安全対策を実践できる。
- ② 標準予防策を実践できる。
- ③ 院内感染に対する対応ができる。
- ④ 清潔に配慮した操作ができる。
- ⑤ 針刺し事故に対する対応ができる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～⑤	講 義	教 員	講義室	スライド プリント	診療時間外	全学生に 教員1名
2	①～⑤	診療参加型 臨床実習 (自験)	教 員	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
3	①～⑤	セミナー SGD	教 員 学 生	セミナー室 ゼミ室	実習帳 スライド プリント	診療時間外	学生10名に 教員1名

学習評価：

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～⑤	形成的	臨床実習生	知 識	教 員	LS1	多肢選択式 客観試験
①～⑤	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS2	観察記録
①～⑤	形成的	臨床実習生	①～⑤に 関する知識	教 員	LS2, 3	レポート

F-5 地域医療

一般目標：歯科診療を適切に行うために、地域医療、病診連携についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
- ② 多職種連携（医師、薬剤師、看護師。歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
- ③ 地域医療を体験する。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	① ②	診療参加型 臨床実習 (診療介助・見学)	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	学生1名に 教員1名
2	① ②	診療介助 診療参加型 臨床実習 (見学)	教 員 看護師	診療室 病 棟	実習帳 教科書	診療時間	学生2名 教員1名 看護師
3	①～③	セミナー SGD	教 員 学 生	セミナー室 ゼミ室	実習帳 スライド プリント	診療時間外	学生10名に 教員1名

学習評価：

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～③	形成的	臨床実習生	①～③に 関する知識	教 員	終了時	レポート

F-6 口腔外科系実習

一般目標：口腔外科の基本手技についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 清潔操作を実践できる。
- ② 抜歯(小手術を含む)の器材の準備ができる。
- ③ 外来手術のための手洗いと滅菌グローブの装着ができる。
- ④ 術野の消毒を実践できる。
- ⑤ 局所麻酔を安全に実施できる。
- ⑥ 単純抜歯を実施できる。
- ⑦ 基本的な縫合操作、抜糸を実施できる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～④ ⑥	実習 マネキン実習	教 員	診療室	模型 マネキン 器材	診療時間外 (自験前)	学生8名に 教員1名
2	⑤	相互実習	教 員 学 生	診療室	器 材	診療時間外 (自験前)	学生4名に 教員1名
3	⑦	実 習 シミュレー ション実習	教 員	実習室	器 材	診療時間外 (自験前)	学生8名に 教員1名
4	①～⑦	診療介助 見 学	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
5	①～⑦	診療参加型 臨床実習 (自 験)	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
6	①～⑦	講 義	教 員	講義室	スライド プリント	診療時間外	全学生に対して 教員1名
7	①～⑦	セミナー SGD	教 員 学 生	セミナー室 ゼミ室	実習帳 スライド プリント	診療時間外	学生10名に 教員1名程度

学習評価：

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
①～⑦	形成的	臨床実習生	技能・態度	教員 学生	LS 1～3	技能試験 マネキン・シミュレーター
①～⑦	形成的	臨床実習生	①～⑦に 関連する 知識	教員	LS 4, 5	口頭試問
①～⑦	形成的	臨床実習生	技能・態度	教員	LS4, 5	観察記録
①～⑦	形成的	臨床実習生	①～⑦に 関連する 知識	教員	LS 7	レポート 症例発表
①～⑦	形成的	臨床実習生	技能・態度	教員	終了時	技能試験 (OSCE)

《追加：F領域に掲載されていないが、水準1の項目》

薬剤情報

到達目標（SBOs）：

- ① 処方箋の作成ができる。
- ② 処方箋に関する薬剤情報（用法、副作用など）を伝えることができる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～②	講 義	教 員 学 生	講義室	スライド プリント	診療時間外 (自験前)	全学生に対して 教員1名
2	①～②	診療介助 見 学	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名
3	①～②	診療参加型 臨床実習 (自験)	教 員 患 者	診療室	実習帳 教科書	診療時間	担当患者 教員1名

学習評価：

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～②	形成的	臨床実習生	知 識	教 員	LS 3	口頭試問
①～②	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS 3	観察記録

F-7 保存系実習

F-7-1) 保存修復実習

一般目標：う蝕およびその他の硬組織疾患の治療のため、コンポジットレジン修復についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs) :

- ① 形成部位に応じて適切なう蝕除去用のバーの選択ができる。
- ② 適切なハンドピース操作ができる。
- ③ コンポジットレジン充填のための適切なレジン窩洞形成ができる。
- ④ コンポジットレジン充填・研磨が適切にできる。
- ⑤ 歯髄保護に配慮できる。
- ⑥ 局所麻酔により無痛的な操作ができる。

学習方略 :

LS	SBOs	種類	人的資源	物的資源		時間	備考
				場所	媒体		
1	①～⑥	模型 マネキン 実習	教員 学生	診療室 スキルラボ	模型 マネキン 基礎実習書 見本模型	診療室：診療時間外 スキルラボ： 適時	希望学生5名程度に 実習内容に応じた 教員1名
2	①～⑥	シミュレー ション 実習	教員	スキルラボ	シミュレーター 基礎実習書 見本模型	自験前	希望学生5名程度に 教員1名
3	⑥	相互実習	学 生 教 員	診療室 スキルラボ	模 型 基礎実習書 教科書 プリント	自験前	学生数名に 歯科麻酔全身管理科 教員1名
4	①～⑥	診療介助 診療見学	患 者 教 員	診療室	基礎実習書 教科書 プリント	診療予約時間	希望学生1～2名に 患者担当医1名
5	①～⑥	診療参加型 臨床実習 (自験)	患 者 教 員	診療室	基礎実習書 教科書 プリント	診療予約時間	患者担当学生1名に 患者担当医1名
6	①～⑥	講義	教員	講堂	スライド プリント 基礎実習書 教科書	講義時間	全学生に 教員1名
7	①～⑥	セミナー 講演会	教員 講演者 (患 者)	講堂 セミナー室	スライド プリント	放課後	通常のセミナー・講演会： 出席学生に 講演内容に応じた教員1名 スモールセミナー： 学生10名未満に 講演内容に応じた教員1名

学習評価：

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
①～⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度 (模型・マネキン実習)	教員 学生	適時	観察記録
①～⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度 (シミュレーション実習)	教員	自験前	観察記録
⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度 (相互実習)	教員	適時	観察記録
①～⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度 (自験)	教員	自験申請後 (自己申請)	自験技能試験 (ケース試験)
①～⑥	形成的	臨床実習生	知識 (自験)	教員	自験前	口頭試問
①～⑥	形成的	臨床実習生	知識 (講義)	教員	学期末	多肢選択式 客観試験
①～⑥	形成的	臨床実習生	知識 (セミナー・講演会 ・診療介助・見学)	教員	受講後 介助・見学後	レポート

F-7 保存系実習

F-7-2) 歯内療法実習

一般目標：歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の治療のために、根管治療についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ①歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の診察、検査、診断ができる。
- ②適切なアクセスキャビティプレパレーションができる。
- ③ラバーダム防湿ができる。
- ④電氣的根管長測定が正しくできる。
- ⑤根管拡大、根管洗浄が適切にできる。
- ⑥根管貼薬が正しくできる。
- ⑦根管充填が適切にできる

学習方略：臨床実習学生を対象

L S	S B O s	種 類	人的資源	物的資源		備 考
				場 所	媒 体	
1	②～⑦	模型実習 マネキン実習	教 員	臨床基礎 実習室	マネキン 模 型 基礎実習書 見本模型	臨床実習開始前：
2	①	診療介助 診療見学 診療参加型 臨床実習 (自 験)	患 者 教 員	診療室	(基礎実習書) (教科書)	
3	②	診療介助 診療見学 診療参加型 臨床実習 (自 験)	患 者 教 員	診療室	(基礎実習書) (教科書) (雑 誌)	
4	③～⑦	診療参加型 臨床実習 (自 験)	患 者 教 員	診療室	(基礎実習書) (教科書)	
5	①～⑦	症例発表会	教 員 学 生	講 堂 セミナー室	スライド プリント	

学習評価

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
②～⑦	総括的	臨床実習 開始前学生	技能 (模型実習) (マネキン実習)	教員	模型実習 マネキン実習 終了時	模型技能試験 マネキン技能試験
①	形成的	臨床実習生	知識・技能・態度 (自験・診療介助 ・見学)	教員 研修歯科医 学生	自験後 (自己申請)	自験技能試験 (ケース試験)
③～⑦	形成的	臨床実習生	知識・技能・態度 (自験・診療介助 ・見学)	教員	自験後 (自己申請)	自験技能試験 (ケース試験)
①～⑦	形成的	臨床実習生	知識 (自験・診療介助 ・見学)	教員	自験前・自験後	口頭試問

F-7-3) 歯周治療実習

一般目標：歯周疾患の治療のために、歯周基本治療についての知識、技能および態度を習得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。
- ② 診断に基づいて適切な治療計画を立案できる。
- ③ 正しくプラークコントロールができる。
- ④ 適切なスクレーピング・ルートプレーニングができる。
- ⑤ 歯周治療時の生活上の注意事項を患者に伝えることができる。
- ⑥ 歯周外科手術の介助が適切にできる

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種類	人的資源	物的資源		時期	備考
				場所	媒体		
1	①～⑥	臨床講義	教員	セミナー室	スライド プリント 臨床実習書	臨床実習 開始前	学生全員に 教員1人
2	①～⑥	臨床実習 (介助・見学)	患者 教員	診療室	臨床実習書 ポートフォリオ ログブック	臨床実習中	学生1～3人に 教員1人程度
3	①～④	相互実習	教員	診療室 スキルス ラボ	臨床実習書 ポートフォリオ	臨床実習中 (自験前)	学生8人に 教員1人程度
4	①②	演習 (総合治療計画 の立案)	教員	セミナー室	患者資料 ポートフォリオ ログブック	臨床実習中	学生8人に 教員1人程度
5	①～⑤	臨床実習 (自験)	患者 教員	診療室	臨床実習書 ポートフォリオ ログブック	臨床実習中	学生1～3人に 教員1人程度

学習評価

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
①～⑥	形成的	臨床実習生	①～⑥に 関連する知識	教員	LS 1 後	レポート
①～⑥	形成的	臨床実習生	技能・態度 (介助・見学)	教員	適時 (自験前)	ポートフォリオ 行動観察記録
①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度	教員	LS 3 中	実地試験 ポートフォリオ
①②	形成的	臨床実習生	①②に 関連する知識	教員	LS 4 終了後	成果物評価 口頭試験
①～⑤	形成的	臨床実習生	技能・態度 (自験)	教員	LS 5 中	実地試験 ポートフォリオ

F-8 補綴系実習

F-8-1) クラウンブリッジ実習

一般目標：クラウンブリッジによる補綴歯科治療についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ① 支台歯の状態に応じて適切な支台築造法を選択し、支台歯築造を実施できる。
- ② 形成部位に応じて適切な支台歯形成のバーの選択ができる。
- ③ 適切なハンドピース操作ができる。
- ④ 装着予定の歯冠補綴装置に応じて適切な支台歯形成ができる。
- ⑤ 歯髄保護に配慮できる。
- ⑥ 局所麻酔により無痛的な操作ができる。
- ⑦ 印象採得を適切に行うことができる。
- ⑧ テンポラリークラウン（ブリッジ）を作製し、支台歯に適切に仮着できる。
- ⑨ 完成したクラウン（ブリッジ）の試適・調整・装着が適切にできる。
- ⑩ クラウン（ブリッジ）装着後の定期健診を実施できる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種類	人的資源	物的資源		時間	備考
				場所	媒体		
1	①～④ ⑦⑧	シミュレーション実習	教員数名 TA数名	実習室	マネキン 模型 実習書	臨床実習開始直前	実習で学習した内容の復習
2	①～⑩	診療参加型 臨床実習 (介助・見学)	教員 患者	診療室	診療台 診療用器材 実習書	診療予約時間	クリニカルチームの一員として診療に従事。指導医の介助を行う。学生1名あたり処置内容は問わずクラウンまたはブリッジ1症例以上見学、1症例以上介助。教員1名に学生4名
3	①～⑩	診療参加型 臨床実習 (自験)	教員 患者	診療室	診療台 診療用器材 実習書	診療予約時間	クリニカルチームの一員として診療に従事。指導医の監督下に診療を行う。学生1名あたりクラウンまたはブリッジ1症例以上、支台歯形成または精密印象を実施。教員1名に学生1名

学習評価：

SBOs	目的	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
①～④ ⑦⑧	形成的評価	臨床実習生	技能	教員	LS1終了時	技能試験（模型）
①～⑩	形成的評価	臨床実習生	技能・態度	教員	LS2, 3期間中	観察記録
①～⑩	形成的評価	臨床実習生	知識	教員	LS2, 3期間中 診療後	レポート

F-8-2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）実習

一般目標：可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）による補綴歯科治療についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ① 口腔内診察および検査結果に基づいて義歯の設計を適切にできる。
- ② 設計に応じて支台歯のプレパレーション（レスト座形成、ガイドプレーン形成など）を適切に実施できる。
- ③ 印象採得を適切に行うことができる。
- ④ 咬合採得を適切に行うことができる。
- ⑤ 人工歯を適切に選択することができる。
- ⑥ ろう義歯の試適を適切に行うことができる。
- ⑦ 完成した義歯を患者に適切に装着することができる。
- ⑧ 患者に対して義歯使用上の注意点について説明できる。
- ⑨ 義歯装着後の定期健診を実施できる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 期 時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～⑨	セミナー	教 員	セミナー室	PC	自験前 120分	講義で学習した内容の復習としてセミナーを実施
2	②～⑦	シミュレーション実習	教 員 T A	スキルス ラボまたは 診療室	診療台 マネキン 模型 実習書	自験前 60分×8回	8名程度のグループに分け、教員1名が指導にあたる。また、TA1名がそれを補助する。
3	⑧	ロールプレイ 相互実習	教 員	セミナー室 または 診療室	模型 指導説明書	自験前 60分×1回	20名程度のグループに分け、教員1名が指導にあたる。
4	①	SGD	教 員	セミナー室	模型 レントゲン 検査所見 サベヤー	自験前 120分	8名程度のグループに分け、教員1名が指導にあたる。実際の症例の診察結果、検査結果を用いる。
5	①	シミュレーション実習	教 員 T A	セミナー室	模型 レントゲン 検査所見 サベヤー	自験前 60分×3回	4名程度のグループに分け、教員1名が指導にあたる。また、TA1名がそれを補助する。
6	① ⑨	診療介助・見学	教員 患者	診療室	診療台 診療用器材 実習書	診療予約時間	クリニカルチームの一員として診療に従事。指導医もしくは研修歯科医の介助を行う。学生1名あたり1症例以上実施。
7	①～⑨	診療参加型 臨床実習 (自験)	教員 患者	診療室	診療台 診療用器材 実習書	診療予約時間	クリニカルチームの一員として診療に従事。指導医もしくは研修歯科医の介助を受けて診療を行う。学生1名あたり1症例以上実施。
8	①～⑨	セミナー	教員 外来講師	セミナー室	PC	臨床実習中 60分×3回	診療参加型実習にて学生が疑問を持ちそうなテーマを選び、臨床に即したセミナーを実施する。

学習評価

SBOs	目的	対象者		評価者	時 期	方法
		誰を	何を			
①～⑨	形成的評価	臨床実習生	知 識	教 員	L S 2 の期間中	口頭試問
②～⑦	形成的評価	臨床実習生	技 能	教 員	L S 2 終了時	シミュレーション試験
①	形成的評価	臨床実習生	知 識	教 員	L S 5 終了時	レポート
②～⑦⑨	形成的評価	臨床実習生	技 能	教 員	L S 6, 7 期間中	観察記録
⑧	形成的評価	臨床実習生	態 度	教 員	L S 6, 7 期間中	観察記録
①～⑨	形成的評価	臨床実習生	知識・態度	教 員	L S 6, 7 期間中 で各担当ケース の診療後	レポート
①～⑨	形成的評価	臨床実習生	知識・技能・ 態度	教 員	臨床実習終了時	シミュレーション試験 * 終了時 OSCE

終了時 OSCE では、①～⑩から 1 つまたは 2 つの課題を作成し行う。

F-9 小児歯科実習

F-9-1) フッ化物塗布

一般目標：安全なう触予防を行うために、フッ化物塗布に必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs) :

- ① 歯面清掃、歯面乾燥ができる。
- ② 簡易防湿ができる。
- ③ 指定された歯フッ化物を塗布できる。
- ④ 清潔に配慮した操作ができる。
- ⑤ 患児の不快感に配慮した操作、声かけができる。

関連学習項目

医療水準 1

〈成長発達・不正咬合〉

- ・ 診断、治療方針の立案、保健指導
- ・ 定期健診時の診察と検査

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種類	人的資源	物的資源		時間	備考
				場所	媒体		
1	①～⑤	見学・介助	教員 患者 歯科衛生士	診療室	臨床実習書	診療時間	学生2名に 患者担当医(教員)1名
2	①～⑤	診療参加型 臨床実習 (自験)	教員 患者 歯科衛生士	診療室	(基礎実習書) (教科書) (雑誌)	診療時間	学生1名に 患者担当医(教員)1名
3	①～⑤	症例報告会	教員	セミナー室	スライド プリント 教科書	診療時間外	学生5名の小グループに 教員1名程度

学習評価：

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
①～⑤	形成的	臨床実習生	技能・態度 (見学・診療補助)	教員	LS1中	観察記録 ポートフォリオ

①～⑤	形成的	臨床実習生	技能・態度 (自 験)	教 員	LS 2 中	アドバンスト OSCE 自験技能試験 (ケース試験)
①～⑤	形成的	臨床実習生	知 識 (症例報告会)	教 員	LS 3 中	レポート

F-9-2) 予防填塞

一般目標：幼若永久歯小窩裂溝部のう蝕予防のために、予防填塞に必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 歯面、小窩裂溝部の清掃、乾燥ができる。
- ② 適切な歯面処理ができる。
- ③ 予防填塞材を適切に填塞できる。
- ④ 患児の痛みや不安感に配慮した操作ができる。
- ⑤ 患児の不安感軽減のための声かけができる。

関連学習項目

医療水準 1

〈成長発達・不正咬合〉

- ・ 診断、治療方針の立案、保健指導
- ・ 定期健診時の診察と検査

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～⑤	見学・介助	教 員 患 者 歯科衛生士	診療室	臨床実習書	診療時間	学生2名に 患者担当医（教員）1名
2	①～⑤	診療参加型 臨床実習 （自 験）	教 員 患 者 歯科衛生士	診療室	（基礎実習書） （教科書） （雑 誌）	診療時間	学生1名に 患者担当医（教員）1名
3	①～⑤	症例報告会	教 員	セミナー室	スライド プリント 教科書	診療時間外	学生5名の小グループに 教員1名程度

学習評価：

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～⑤	形成的	臨床実習生	技能・態度 (見学・介助)	教 員	LS 1 中	観察記録 ポートフォリオ
①～⑤	形成的	臨床実習生	技能・態度 (自 験)	教 員	LS 2 中	アドバンスト OSCE 自験技能試験 (ケース試験)
①～⑤	形成的	臨床実習生	知 識 (症例報告会)	教 員	LS 3 中	レポート

F-9-3) 保護者へのブラッシング指導

一般目標：小児のプラークコントロールを行うために、保護者へのブラッシング指導に必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 分かりやすい言葉使いと聴き取りやすい話し方ができる。
- ② 保護者の理解度を確認しながら指導できる。
- ③ 仕上げ磨きの方法を指導できる。
- ④ 保護者に練習させながら指導できる。

関連学習項目

医療水準 1

〈成長発達・不正咬合〉

- ・ 診断、治療方針の立案、保健指導
- ・ 定期健診時の診察と検査

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～④	相互実習 (または SP 参加の実習)	教 員 (模擬患者)	セミナー室	ビデオ 臨床実習書 顎歯模型 歯ブラシ	実習時間	(臨床実習開始前) 学生 10 名に 教員 1 名程度
2	①～④	見学・介助	教 員 患 者 歯科衛生士	診療室	臨床実習書	診療時間	学生 2 名に 患者担当医 (教員) 1 名
3	①～④	診療参加型 臨床実習 (自 験)	教 員 患 者 歯科衛生士	診療室	(基礎実習書) (教科書) (雑 誌)	診療時間	学生 1 名に 患者担当医 (教員) 1 名
4	①～④	症例報告会	教 員	セミナー室	スライド プリント 教科書	診療時間外	学生 5 名の小グループに 教員 1 名程度

学習評価：

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度 (実 習)	教 員	LS 1 中	口頭試問 技能試験
①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度 (見学・診療補助)	教 員	LS 2 中	観察記録 ポートフォリオ

①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度 (自 験)	教 員	LS 3 中	アドバンスト OSCE 自験技能試験 (ケース試験)
①～④	形成的	臨床実習生	知 識 (症例報告会)	教 員	LS4 中	レポート

F-10 矯正歯科実習

F-10-1) 成長発育期の口唇・口腔・顎顔面の診察

一般目標：成長発育期の患者の口唇・口腔・顎顔面の状態を把握するために、非侵襲的な診察と検査を行うための基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 成長発育期の患者の顎顔面形態と口唇・口腔内所見の特徴を説明できる。
- ② 顎顔面形態の特徴を視診にて把握することができる。
- ③ 口唇・口腔内の視診を行うことができる。
- ④ 顎顔面形態と口唇・口腔内の所見を適切に記録することができる。
- ⑤ 成長発育期の患者や保護者に配慮した診察を行うことができる。

学習方略：

LS	SBOs	種類	人的資源	物的資源		時間	備考
				場所	媒体		
1	②～④	相互実習	学生 教員	診療室 スキルラボ	模型 基礎実習書 プリント 教科書 ポートフォリオ	臨床実習開始前	学生2～5名に 矯正歯科教員1名
2	①, ⑤	診療参加型 臨床実習	患者 教員	診療室	(基礎実習書) (教科書) (参考書) ポートフォリオ	臨床実習中	学生2～5名に 矯正歯科教員1名
3	①～⑤	セミナー	教員	セミナー室	スライド プリント ビデオ	診療時間外	学生2～5名に 矯正歯科教員1名

学習評価：

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
②～④	形成的	臨床実習生	知識・技能・ 態度 (相互実習)	教員 学生	LS 1 中	口頭試問 観察記録 相互評価
①, ⑤	形成的	臨床実習生	知識・技能・ 態度	教員 学生	LS 2 中	口頭試問 観察記録 相互評価
①～⑤	形成的	臨床実習生	知識	教員	LS 3 中	レポート

F-10-2) 矯正装置の説明

一般目標：矯正治療に際し、使用する装置について患者や保護者に分かりやすく説明するために必要な基本的知識、技能および態度を修得する。

到達目標 (SBOs)：

- ① 矯正治療の必要性を説明できる。
- ② 矯正装置について説明できる。
- ③ 様々な媒体を用いて説明できる。
- ④ 患者や保護者の理解度を確認しながら説明できる。
- ⑤ 分かりやすい言葉使いと聴き取りやすい話し方ができる。

学習方略：

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		時 間	備 考
				場 所	媒 体		
1	①～⑤	シミュレーション実習	学 生 教 員	セミナー室	診断用資料 (プリント) (教科書) (参考書) ポートフォリオ	臨床実習開始前	学生2～5名に 矯正歯科教員1名
2	①～⑤	診療参加型 臨床実習	患 者 教 員	診療室	(基礎実習書) (教科書) (参考書) ポートフォリオ	臨床実習中	学生2～5名に 矯正歯科教員1名
3	①～⑤	セミナー	教 員	セミナー室	スライド プリント ビデオ	診療時間外	学生2～5名に 矯正歯科教員1名

学習評価

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～⑤	形成的	臨床実習生	技 能・態 度 (シミュレーション実習)	教 員 学 生	LS 1 中	観察記録 相互評価
①～⑤	形成的	臨床実習生	技 能・態 度	教 員 学 生	LS 2 中	口頭試問 観察記録 相互評価
①～⑤	形成的	臨床実習生	技 能・態 度	教 員	LS 3 中	レポート

F領域に記載されている歯科麻酔学領域の項目

I. 局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）

F-6 口腔外科系実習

一般目標：口腔外科の基本的な手技についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ⑤局所麻酔を安全に実施できる。

F-7-1) 保存修復実習

一般目標：う蝕およびその他の硬組織疾患の治療のため、コンポジットレジン修復についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ①局所麻酔により無痛的な操作ができる。

F-8-1) クラウンブリッジ実習

一般目標：クラウンブリッジによる補綴歯科治療についての知識、技能および態度を修得する。

到達目標：

- ⑥局所麻酔により無痛的な操作ができる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		備 考
				場 所	媒 体	
1	局所麻酔相当箇所	マネキン実習	教 員	基礎実習室	マネキン教科書 臨床実習書	学生10名に教員1名 (臨床実習開始前)
2	局所麻酔相当箇所	相互実習	学 生 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	学生2名に教員1名
3	局所麻酔相当箇所	診療介助 診療見学	患 者 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	学生1名に患者担当医1名
4	局所麻酔相当箇所	診療参加型 臨床実習 (自 験)	患 者 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	学生1名に患者担当医1名

学習評価

SBOs	目的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時期	方法
		誰を	何を			
局所麻酔 相当箇所	形成的	臨床実習生	技能・態度 (マネキン実習)	教員	LS1 中	技能試験
局所麻酔 相当箇所	形成的	臨床実習生	技能・態度 (相互実習)	教員 学生	LS2 中	技能試験 相互評価
局所麻酔 相当箇所	形成的	臨床実習生	技能・態度	教員	LS3 中	レポート
局所麻酔 相当箇所	形成的	臨床実習生	技能・態度	教員	LS4 中	観察記録 レポート 実地試験

F領域に記載されていない歯科麻酔学領域の項目

・水準 1

I. ショックの救急処置（気道確保、人工呼吸）、胸骨圧迫、誤嚥に対する処置

一般目標： 歯科治療時の緊急事態に適切に対応するために必要な基本的技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ①気道確保ができる。
- ②人工呼吸ができる。
- ③胸骨圧迫ができる。
- ④心肺蘇生（BLS）の一連の流れを実施できる。
- ⑤誤嚥に対する処置ができる。

学習方略： 臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		備 考
				場 所	媒 体	
1	①～⑤	マネキン実習	教 員	スキルラボ 基礎実習室	マネキン 教科書	学生4名に教員1名 (臨床実習開始前)
2	⑤	相互実習	学 生 教 員	スキルラボ 基礎実習室	教科書 臨床実習書	学生4名に教員1名 (臨床実習開始前)
※ 3	①、②	診療参加型 臨床実習 (自 験)	患 者 教 員	手術室	教科書 臨床実習書	学生1名に患者担当医1名

※LS 3は場合によっては削除可能

学習評価

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～⑤	形成的	臨床実習生	技能・態度 (マネキン実習)	教 員	LS1, LS2 後	技能試験
①、②	形成的	臨床実習生	技能・態度 (マネキン実習)	教 員	LS3 中	技能試験

・水準 2

I. 局所麻酔（伝達麻酔）

一般目標：無痛的治療を行うために伝達麻酔についての基本的技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ①器具の準備ができる。
- ②正しい術式で麻酔注射を行うことができる。
- ③清潔に配慮した操作ができる。
- ④麻酔後の注意を伝えることができる。

学習方略：臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		備 考
				場 所	媒 体	
1	①～④	マネキン実習	教 員	基礎実習室	マネキン 教科書 臨床実習書	学生 10 名に教員 1 名 (臨床実習開始前)
2	①～④	相互実習	学 生 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	学生 2 名に教員 1 名
3	①～④	診療介助 診療見学	患 者 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	学生 1 名に患者担当医 1 名
4	①～④	診療参加型 臨床実習 (自 験)	患 者 教 員	診療室	教科書 臨床実習書	学生 1 名に患者担当医 1 名

学習評価

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度 (マネキン実習)	教 員	LS1 中	技能試験
①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度 (相互実習)	教 員 学 生	LS2 中	技能試験 相互評価
①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS3 中	レポート
①～④	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS4 中	観察記録 レポート 実地試験

II. 血管穿刺（静脈確保）

一般目標： 歯科治療時の緊急事態に適切に対応するために静脈確保についての基本的技能および態度を修得する。

到達目標（SBOs）：

- ①器具の準備ができる。
- ②正しい術式で静脈確保を行うことができる。
- ③清潔に配慮した操作ができる。

学習方略： 臨床実習学生（第5学年・第6学年）を対象

LS	SBOs	種 類	人的資源	物的資源		備 考
				場 所	媒 体	
1	①～③	マネキン実習	教 員	スキルラボ 基礎実習室	マネキン 教科書	学生10名に教員1名 (臨床実習開始前)
2	①～③	相互実習	学 生 教 員	診療室	教科書	学生2名に教員1名
3	①～③	診療介助 診療見学	患 者 教 員	診療室	教科書	学生1名に患者担当医1名

学習評価

SBOs	目 的 (形成的) (総括的)	対象者		評価者	時 期	方 法
		誰を	何を			
①～③	形成的	臨床実習生	技能・態度 (マネキン実習)	教 員	LS1 中	技能試験
①～③	形成的	臨床実習生	技能・態度 (相互実習)	教 員 学 生	LS2 中	技能試験 相互評価
①～③	形成的	臨床実習生	技能・態度	教 員	LS3 中	レポート

歯学教育調査研究チーム委員一覧（五十音順）（専門領域）

- 荒木 孝二 東京医科歯科大学大学院・教授（歯内療法学）
- 石田 達樹 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構事業部長
- 一戸 達也 東京歯科大学水道橋病院長・教授（歯科麻酔学）
- 魚島 勝美 新潟大学大学院・教授（歯科補綴学）
- 大原 里子 東京医科歯科大学歯学部附属病院・講師（予防歯科学）
- 小野 卓史 東京医科歯科大学大学院・教授（歯科矯正学）
- 河野 文昭 徳島大学歯学部・教授（総合診療歯科学）
- 中島 一郎 日本大学歯学部・教授（小児歯科学）
- 中嶋 正博 大阪歯科大学・准教授（口腔外科学）
- 長島 正 大阪大学歯学部附属病院・准教授（総合診療歯科学）
- 奈良陽一郎 日本歯科大学生命歯学部・教授（保存修復学）
- ◎俣木 志朗 東京医科歯科大学大学院・教授（歯科医療行動科学）
- 森尾 郁子 東京医科歯科大学大学院・教授（歯学教育開発学）
- 矢谷 博文 大阪大学大学院・教授（歯科補綴学）
- 山本 松男 昭和大学歯学部・教授（歯周病学）

（◎：チームリーダー）

（オブザーバー）

- 江藤 一洋 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長